

「書物・出版と社会変容」研究会 活動記録

- ・開催日・場所・報告者・報告タイトルなど。
- ・例会第一回から第四十五回までは、第六号参照。

第四十八回 二〇〇九年六月一三日 一橋大学佐野書院

佐藤 温 「菊池教中の経世意識と『澹如詩稿』」

高倉一紀 「伊勢商人の書齋から―堀内広城における鈴屋学の受容と中継」

第四十六回 二〇〇九年四月二一日 一橋大学佐野書院

黒須あずみ 「江戸時代の湯治と書物―箱根温泉を事例に」

浅岡邦雄 「博文館『日本大家論集』の虚実」

第四十九回 二〇〇九年七月四日 一橋大学佐野書院

川崎理恵 「大雑書に関する書誌的考察―大冊化への意義」

水村暁人 「『文月浅間記』の流布・出版過程―天明噴火物語研究序説」

第四十七回 二〇〇九年五月九日 一橋大学佐野書院

松金直美 「東本願寺再建と教化活動―文政度再建をめぐって」

つて」

引野亨輔 「近世後期の地方書肆と村落民衆―倉敷書肆太田屋六蔵を事例として」

第五十回 二〇〇九年一〇月三日 一橋大学佐野書院

高野秀晴 「教訓」と「奇談」―『当世下手談義』を中心に

小林准士 「三業惑乱と京都本屋仲間―『興復記』出版の

※第七回<sup>たんき</sup>蹴奇会

波紋」

※編集部より お詫びと訂正

前号『書物・出版と社会変容』第六号の「書物・出版と社会変容」研究会活動記録一七〇頁に誤りがありました。報告者の方々にお詫びを申し上げ、次のように訂正いたします。大変失礼いたしました。

【誤】

第三十八回 二〇〇八年二月二日 一橋大学佐野書院

湯川真人 「近世後期庄内地域・名主佐藤家の書物ネットワークに関する一考察―「五峯館蔵書」と「書物貸預記并書物注文代記」を中心に」

木場貴俊 「「怪異」と禁制―『本朝神社考』『僧正谷』を手がかりにして」

←

【正】

第三十八回 二〇〇八年四月十二日 一橋大学佐野書院

田中葉子 「黒船かわら版の作り手と読み手」

杉 仁 「下総津宮村名主文人「窪木清洲」の書物出版活動―蘇東坡・范石湖」志」の手製木活字印刷と『補訂鄭註孝経』の考証―出版」

韓国ソウルでの書物調査の一コマ



写真上：仁寺洞の骨董街

写真右：骨董街に精通し、書物・版木・古活字などを悉皆調査する高橋章則氏（2009年、本誌特派員撮影）。こうして収集された稀覯本・珍品は、「書物・出版と社会変容」で不定期に開催される献奇会に出品される。